

昆虫類

(現状の解明度)

昆虫類はきわめて多くの種類を含む分類群である。広島市そして広島県の昆虫相としては、チョウ目、トンボ目そしてコウチュウ目のごく一部の科、バッタ目の一部、カメムシ目のセミ科などが比較的良好に調べられているにすぎず、多数の種類が知られているハチ目、ハエ目などは断片的な記録しかなく、まだほとんど調査されていない。また、確認されている場所は限られており、どの地域でも詳細に調査がいきとどいているとはいえない。

(選定候補種の抽出過程)

希少で絶滅のおそれのある種類や環境指標種だけでなく、人里近くに普通に生息し昔から生活の中で話題となり親しまれてきた種類も対象として選定候補を抽出した。とくに、後者の中では最近急速に減少している種類を取り上げた。

このようにして抽出した選定候補種は100種類以上にのぼるが、生息状況の解明度を種類ごとに検討した結果、最終的には比較的知見、情報の多い52種を選定した。

(現地調査結果)

選定候補種の確認は、昆虫類の場合は成虫の出現時期が2週間前後と短いものも多いため、2年間の調査期間では、最適場所や最適時期と想定して調査を実施しても生息を確認できないことも多くあった。したがって、今回の調査で情報が十分に収録されたとはいえない。

分科会のメンバーに“広島虫の会”会員の有志が加わって現地調査を行った。

ゲンバイトンボのように生息地が各所で見つかる場合もあった。ゲンバイトンボの場合は、生息環境の改変から年数が経過して環境が安定してきたり、生息環境が保全されることにより生息密度が高くなったことが生息地の増加という結果につながったが、以前の情報が欠落しているため、もとの戻ったか否かを判断することはできなかった。太田川の調査では、カワラハンミョウは確認できなかったが、カワラバッタなど特異的に出現する昆虫の情報を得ることができた。

(選定結果)

52種を選定した。内訳は、絶滅7種、広島市の絶滅のおそれあるもの22種(絶滅危^く惧5種、準絶滅危^く惧10種、軽度懸念5種、情報不足2種)、環境指標種23種である。

ネアカヨシヤンマは1952年の初確認以来記録がなく、コオイムシ、タガメ、コガタノゲンゴロウ、オオクワガタ、シルビアシジミ、オオウラギンヒョウモンも今回の調査では確認できず、絶滅とした。

カワラバッタは、植物の生育していない河原を生息地とするため、生息環境の減少によって個体数が減少しているため絶滅危^く惧とした。カワラハンミョウも河原を生息地とするもともと希少な種であるが、近年確認されておらず絶滅危^く惧とした。ゲンゴロウ、シマゲンゴロウは、池沼を生息地とするが、生息地の減少でほとんど確認され

なくなったことから絶滅危惧^くとした。ギフチョウは、全国的には希少な種であるが広島市では山地に広く分布し多産していた。しかし、食草のカンアオイ類が生育する山林が開発や荒廃で減少し、いずれの産地でも発生数が減少しており、絶滅危惧^くとした。

準絶滅危惧^くとした10種は、近年急激に減少したり、生息地が限られる種でありながら生息地の減少が著しいものを選定した。クツワムシの場合は、今回の調査で安佐南区安川流域から佐伯区石内川流域にかけて分布を確認したが、この10～20年の間に、東区や安佐北区など多くの地域で鳴き声が聞かれなくなっている。オオオサムシの南区黄金山の陸島個体群とマイマイカブリの陸島個体群は、生息場所が市街地の自然緑地に限定されており、開発により絶滅のおそれがある。

軽度懸念としたオオムラサキなど5種は、個体数は少ないものの生息基盤が安定しており、当面の絶滅のおそれはない。

マルタンヤンマとジュウシチホシハナムグリは希少な種であるが、近年の動向を判断するほどの情報が集まらず、情報不足とした。

環境指標種として選定した23種は、湿地、ため池、小川、荒れ地、河原、草地、雑木林、針葉樹林などの指標である。たとえば、チョウトンボやアミメトビケラはため池を生息場所とするが、広島市にはため池がもともと少ないうえに荒廃したものが多く、管理されている池でもオオクチバス(ブラックバス)が移入され、生息環境の悪化や減少が懸念される。このため、良好なため池の環境指標種とした。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少^き生物調査報告」で選定された種のうち、今回選定しなかったものは、つぎのとおりである。

エグリトビケラ、オサムシモドキ、オビカゲロウ、キタガミトビケラ、クロカワゲラ^ラの一種、クロツツトビケラ、チビノギカワゲラ、ノギカワゲラ、フタスジキソトビケラ、ミジカオカワゲラ^ラの一種、アオマツムシ、アカアシクワガタ、エゾスジグロチョウ、エゾゼミ、オオキンカメムシ、オオゴキブリ、オオツチハンミョウ、オニヤンマ、カワムラトガリバ、ギンヤンマ、クマゼミ、サツマジジミ、ソボリンゴカミキリ、タマムシ(ヤマトタマムシ)、ナガサキアゲハ、ネジロフトクチバ、ネプトクワガタ、ハグロトンボ、ヒグラシ、ホシベニカミキリ、ミカドアゲハ、ミズカミキリ、ミンミンゼミ、ムカシトンボ、ラミーカミキリ

これらは、近年の確認状況から比較的安定して生息しており当面の絶滅のおそれがないと判断した種もあるが、近年の生息状況を判断できるほどの情報が収集できず、現状が評価できなかったため取り上げなかった種も多くある。

アオマツムシ、ミカドアゲハ、ナガサキアゲハ、サツマジジミ、ラミーカミキリなどは、帰化種あるいは国内で分布域を広げている種であるので選定しなかった。これらは、広島市では生息域や密度が増大し比較的普通種となっている。また、オオキンカメムシは、広島市で繁殖や定着が確認されていないので選定しなかった。

昆虫類の選定種

絶滅・絶滅

ネアカヨシヤンマ
コオイムシ
タガメ
コガタノゲンゴロウ
オオクワガタ
シルビアシジミ
オオウラギンヒョウモン

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^く

カワラバッタ
カワラハンミョウ
ゲンゴロウ
シマゲンゴロウ
ギフチョウ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧^く

アオハダトンボ
クツワムシ
ヒメハルゼミ
エリザハンミョウ
オオオサムシ(陸島個体群)
マイマイカブリ(陸島個体群)
ヒョウタンゴミムシ
コルリクワガタ
オオクロカミキリ
ヒゲナガカミキリ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

コハンミョウ
ハネナシセスジキマワリ
ヤマトシロオビトラカミキリ
タテジマカミキリ
オオムラサキ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

マルタンヤンマ
ジュウシチホシハナムグリ

環境指標種

グンバイトンボ
ムカシヤンマ
ハッチョウトンボ
トノサマバッタ
キバナガミズギワゴミムシ
ホソクロマメゲンゴロウ
オビモンマグソコガネ
ヒゲコガネ
ホソコハナムグリ
クロカナブン
ヤマトタマムシ
ゲンジボタル
ヘイケボタル
ウスバカミキリ
キマダラカミキリ
ミヤマカミキリ
ヨツスジトラカミキリ
セダカコブヤハズカミキリ
クワカミキリ
シロスジカミキリ
アミメトビケラ
ウスイロオナガシジミ
ヒロオビミドリシジミ

昆虫類

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない

■ネアカヨシヤンマ（トンボ目，ヤンマ科）

Aeschnophlebia anisoptera

本州（新潟県及び関東以西），四国，九州の平地や谷間にあるヨシやガマ類などが繁茂する湿地，池に生息する。体長77～83mm。成虫は6～9月に出現。

中区で古い記録があるが市街化して生息環境はなくなった。県内では，沿岸部及び島しょ部の一部に生息している。



昆虫類

絶滅・絶滅

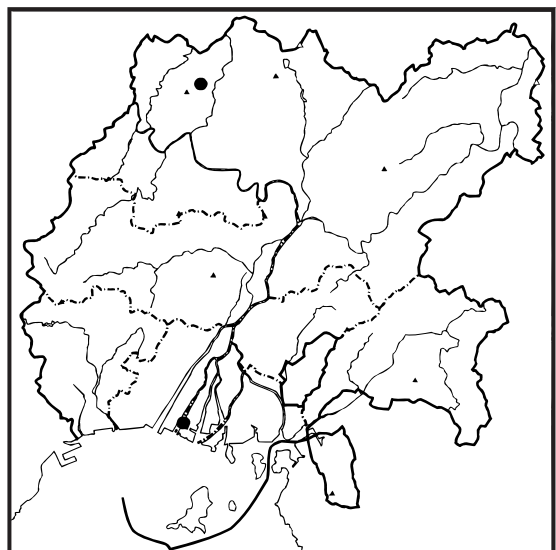
10～20年間確認されていない

■コオイムシ（カメムシ目，コオイムシ科）

Diplonychus japonicus

本州，四国，九州に分布し，ヨシなどの抽水植物が多い池や沼に生息する。体長17～21mm。

1950年代までは普通にみられたが，農薬の濫用と都市化による生息環境の消失により1960年代以降激減し，現在は絶滅。広島市周辺では豊平町や東広島市，倉橋島，能美島で生息が確認されている。



昆虫類

絶滅・絶滅

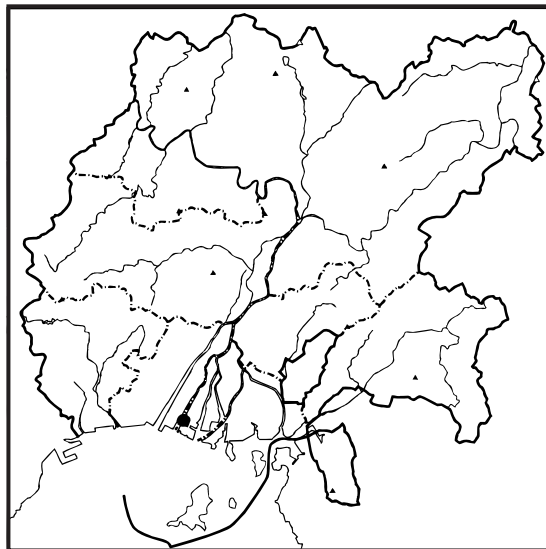
10～20年間確認されていない

■ タガメ（カメムシ目，コオイムシ科）

Lethocerus deyrollei

本州，四国，九州，沖縄本島に分布し，全国的に減少している。体長48～65mm。池沼や水田などに生息しカエルや小魚の体液を吸う。

市域でも普通にみられたと思われるが記録は少ない。中区，安芸区から記録がある。市域では開発が進み，生息場所である池沼，水田が急速に減少している。



昆虫類

絶滅・絶滅

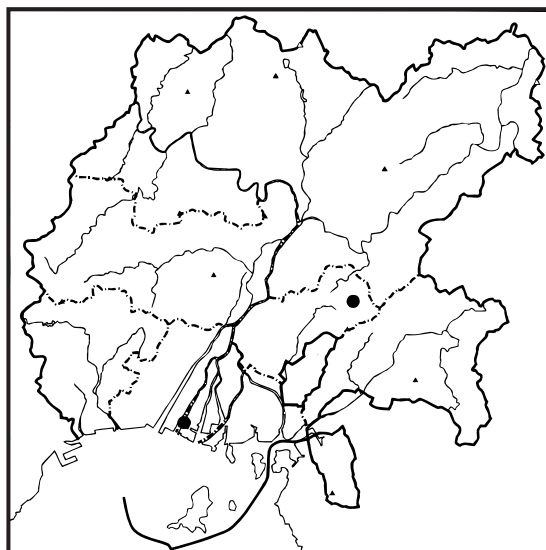
10～20年間確認されていない

■ コガタノゲンゴロウ（コウチュウ目，ゲンゴロウ科）

Cybister tripunctatus orientalis

本州，四国，九州，南西諸島に分布し，水田や水生植物が多い池や沼に生息する。体長24～30mm。

1957年の文献には「（江波町の）池沼に少ないが産す」とあるが，1965年に舟入南町で得られた個体を最後に記録は途絶える。その後，1995年に東区福田町で死体が得られたが，これは偶然採取されたものと推測される。



昆虫類

絶滅・絶滅

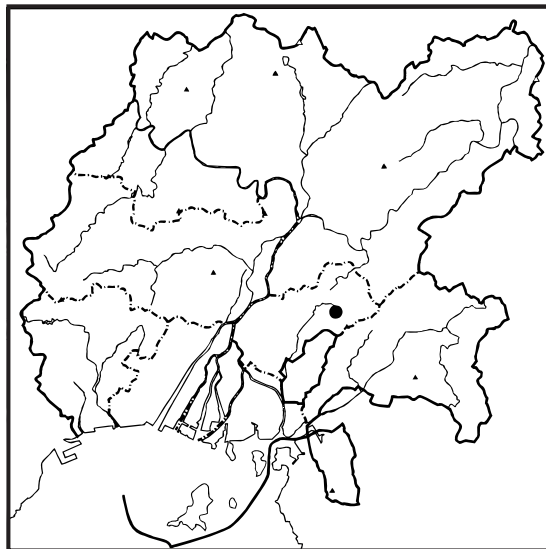
10～20年間確認されていない

■オオクワガタ（コウチュウ目，クワガタムシ科）

Dorcus hopei

北海道から九州まで分布する。体長30～70mm。

市域では東区が唯一の産地であるが，初記録以後の採集記録がなく，すでに絶滅してしまった可能性が高い。



昆虫類

絶滅・絶滅

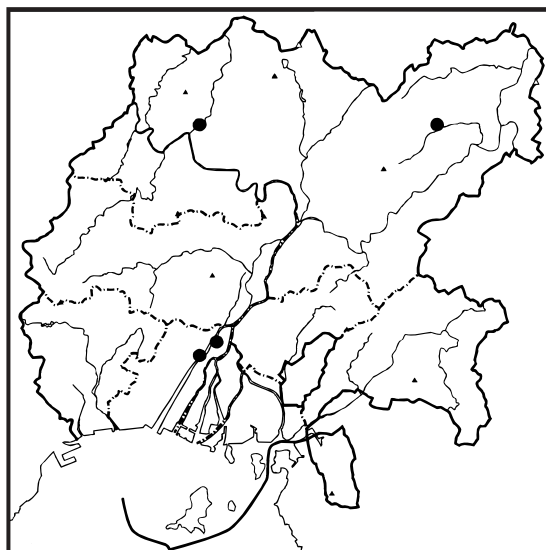
10～20年間確認されていない

■シルビアシジミ（チョウ目，シジミチョウ科）

Zizina otis emelina

本州，四国，九州に分布し，堤防などの草地に生息する。局地的に分布し，生息地の堤防の改修などで絶滅したところが多い。開張20mm。

1960年代以降まったく記録がない。記録のある太田川放水路では現在も食草のミヤコグサが生育するが，本種はみられない。いなくなった原因もよく分からない。



昆虫類

絶滅・絶滅

10～20年間確認されていない

■ オオウラギンヒョウモン（チョウ目，タテハチョウ科）

Fabriciana nerippe

本州，四国，九州に分布するが，生息地は局限され，近年は絶滅したところが多い。開張70～80mm。スミレ類を食草とし，草原で発生する。

1950年代以降まったく記録がない。草地の減少が原因と考えられるが，いなくなったはっきりした原因は不明。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

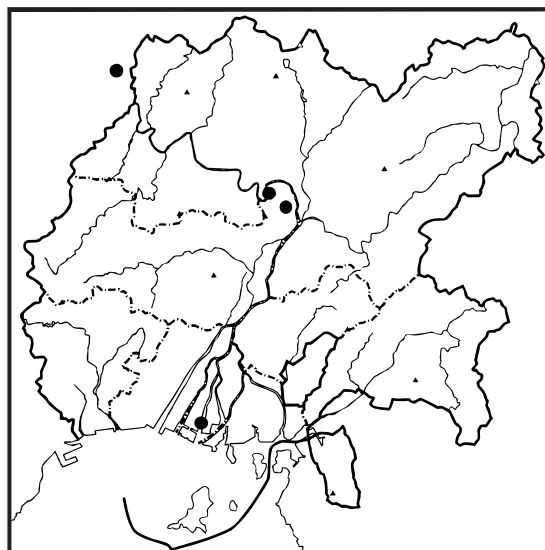
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ カワラバッタ（バッタ目，バッタ科）

Eusphingonotus japonicus

本州，四国，九州に分布し，転石からなる河原に生息する。体長25～43mm。後翅基部に鮮やかな青色紋がある。全国的に減少している。

太田川流域では安佐北区可部町と安佐南区八木町の河原で生息が確認されていたが，八木町では護岸工事のため1993年以降激減し，1999年の調査では確認されなかった。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

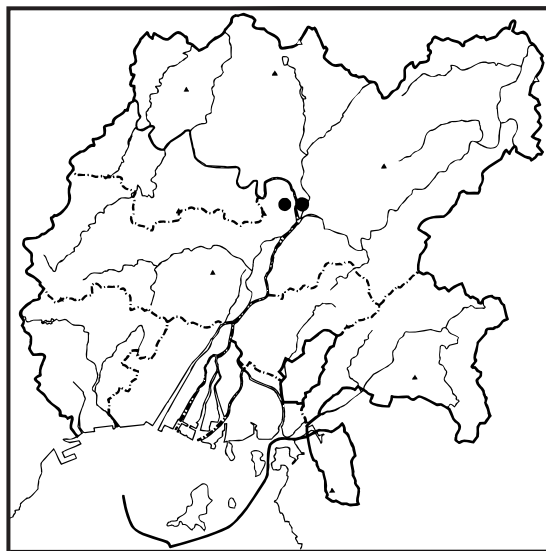
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■カワラハンミョウ（コウチュウ目，ハンミョウ科）

Cicindela laetescripta

北海道から九州まで分布する。体長約16mm。海浜や河原などに生息する。海岸線の埋め立てと護岸工事，河川改修などで，生息地がなくなってしまった。

1967年の安佐北区の記録を最後に，記録はない。再発見されていないので，すでに絶滅した可能性もある。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

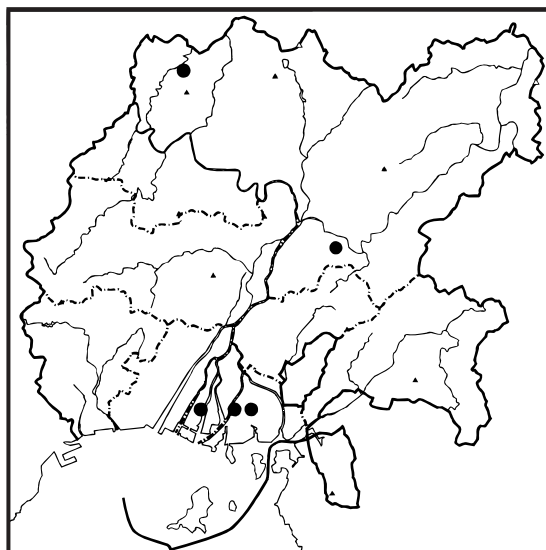
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ゲンゴロウ（コウチュウ目，ゲンゴロウ科）

Cybister japonicus

北海道，本州，四国，九州に分布し，水生植物が多い池や沼に生息する。体長34～42mm。

1950年代までは普通にみられたが，農薬の濫用や都市化による生息地の消失により急激に減少し，1959年以降記録は途絶える。その後，1997年に安佐北区深川町で再発見され，1999年にも採集されたが，繁殖は確認されていない。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■シマゲンゴロウ（コウチュウ目，ゲンゴロウ科）

Hydaticus bowringii

北海道，本州，四国，九州に分布し，水田や水生植物が多い池や沼に生息する。体長12～14mm。

ゲンゴロウと同様に1950年代までは普通にみられたが，農薬の濫用や都市化による生息地の消失により急激に減少し，近年，東区と安佐北区で数個体が採集されているにすぎない。また，いずれの採集地でも繁殖は確認されていない。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

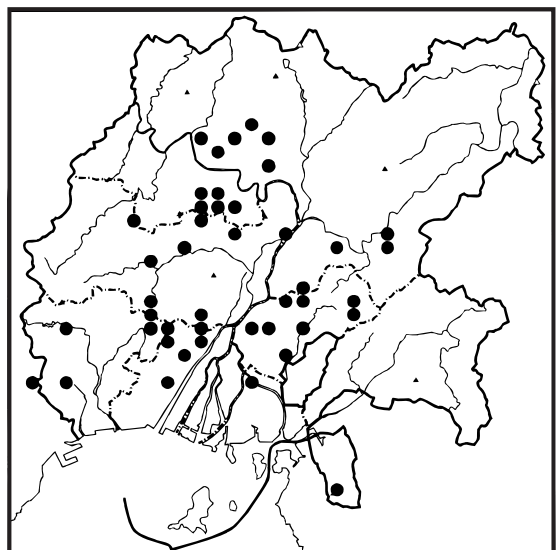
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ギフチョウ（チョウ目，アゲハチョウ科）

Luehdorfia japonica

太平洋側では関東以南，日本海側では秋田県南部以南の本州に分布し，低山地の落葉樹林に生息する。開張50～55mm。成虫は4月に発生する。

市域では宅地開発や山林の荒廃により食草のカンアオイ類が減少し，個体数が減っている。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

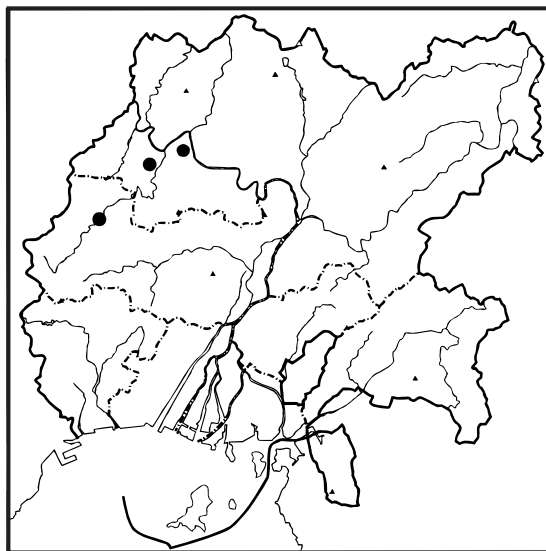
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■アオハダトンボ（トンボ目，カワトンボ科）

Calopteryx japonica

本州，九州に分布し，丘陵地の岸辺に水草が繁茂する流れに生息する。体長55～58mm。成虫は5～7月に出現する。

太田川支流の2カ所で確認されているだけである。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

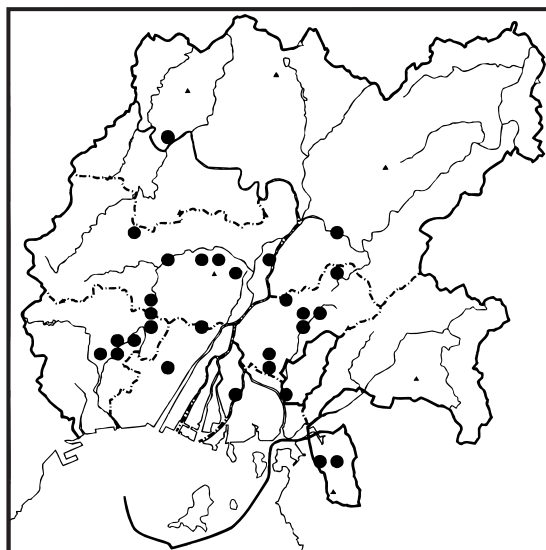
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■クツワムシ（バッタ目，キリギリス科）

Mecopoda niponensis

関東以西の本州，四国，九州，対馬に分布し，林縁や法面などのマント群落に生息する。体長50～53mm。

集団を形成する習性があり，動作が緩慢で飛翔による移動能力も劣るため，生息環境の改変の影響を受けやすい。近年，郊外では生息地の破壊により減少が著しく，集団のサイズも小さくなりつつある。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

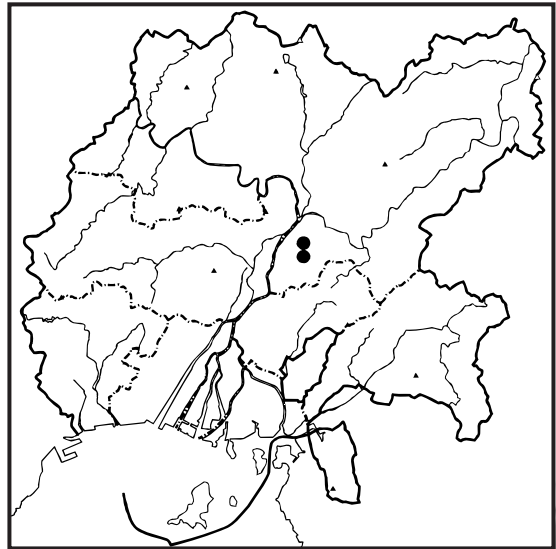
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ヒメハルゼミ（カメムシ目，セミ科）

Euterpnosia chibensis chibensis

本州，四国，九州，屋久島，奄美大島，
沖縄などに分布し，照葉樹林に生息する。
本州の分布は局地的。体長23～28mm。
合唱性があり，ウィーン，ウィーンと鳴く。

市域では安佐北区の社叢^{しゃそう}が唯一の生息地
で，個体数は非常に少ないと思われる。周
辺はほとんど宅地化されており，現在の植
生が失われることは絶滅を意味する。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

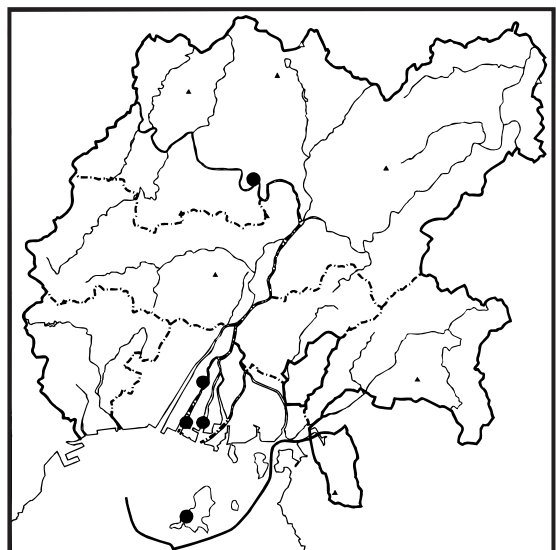
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■エリザハンミョウ（コウチュウ目，ハンミョウ科）

Cicindela erisae

北海道から九州まで分布し，河原や海浜
に生息する。体長約10mm。海岸線の埋め
立てと護岸工事，河川の改修などで，生息
地がほとんどなくなってしまった。

市域では，1950年代には中区にも生息
していたが，その後1986年に安佐北区で
採集されて以降記録がなかった。今回，南
区^{にのしま}似島で確認できたが，分布は局限されて
いる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

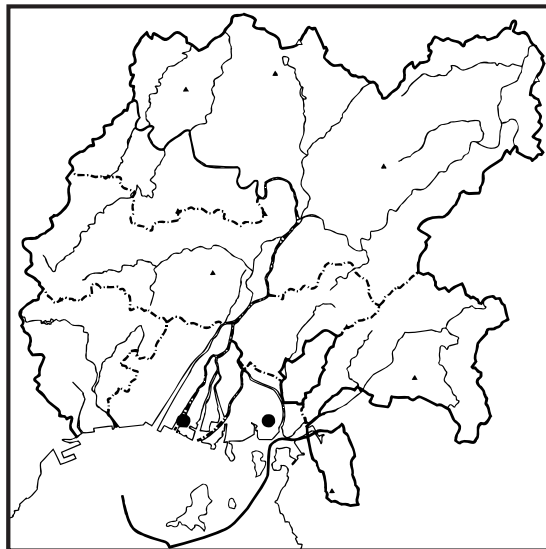
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ オオオサムシ（陸島個体群）（コウチュウ目，オサムシ科）

Carabus dehaanii

中部地方以西の本州，四国，九州に分布する。体長約35mm。

オオオサムシは市域に広く分布しているが，陸島個体群として南区黄金山の集団は分布上重要である。同所は中腹まで宅地になり，個体数は激減している。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

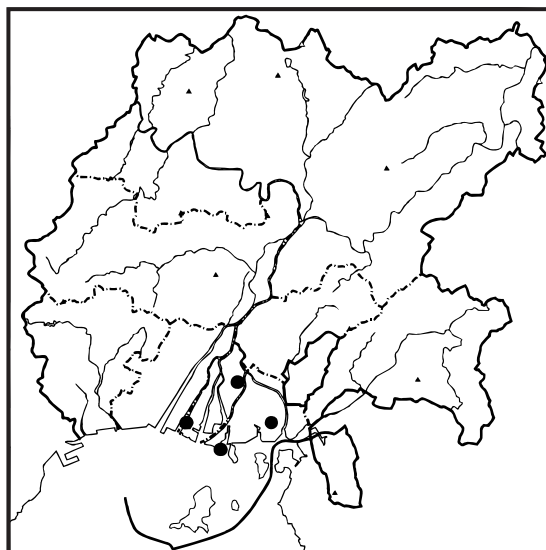
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ マイマイカブリ（陸島個体群）（コウチュウ目，オサムシ科）

Damaster blaptoides

近畿以西の本州，四国，九州に分布する。体長は約50mm。

マイマイカブリは市域に広く分布しているが，陸島個体群としては南区比治山では1972年以降，南区元宇品^{もとうじな}では1976年以降採集されていない。南区比治山，黄金山，元宇品^{もとうじな}では，周辺の都市化に伴い，近い将来いなくなるおそれがある。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

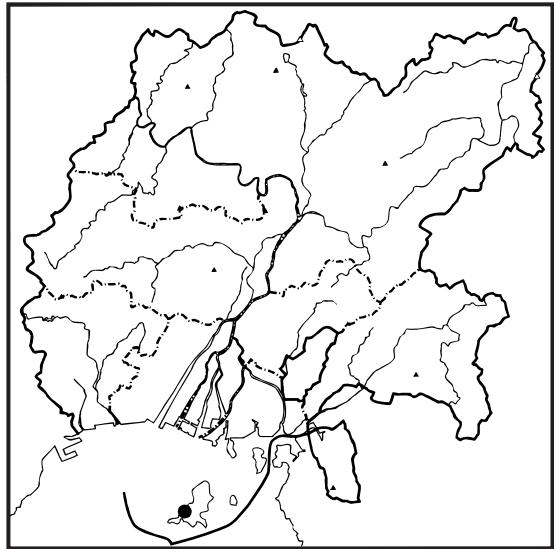
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ヒョウタンゴミムシ（コウチュウ目，オサムシ科）

Scarites aterrimus

北海道から九州まで分布する。体長約20mm。砂浜に生息する。

広島市の海岸線が埋め立てられて，大潮の満潮時に浜が残るような広い砂浜がなくなり，生息地がなくなってしまった。南区にのしま似島で確認しているが，護岸工事で大潮の満潮時に浜が海面下に沈むようになると，集団が小さいため，絶滅するおそれが高い。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

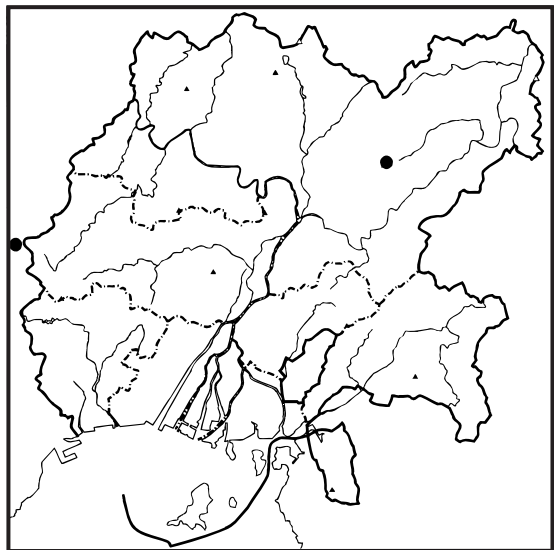
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ コルリクワガタ（コウチュウ目，クワガタムシ科）

Platycerus acuticollis

本州から九州まで分布する。体長8～11mm。県内の主要な生息地は中国山地沿いのブナ林であり，市域の分布地は南限に近く重要である。

安佐北区と安佐南区の生息地は，頂上付近のごく狭い範囲に限られている。伐採とか山火事で森林がなくなると絶滅するおそれが高い。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

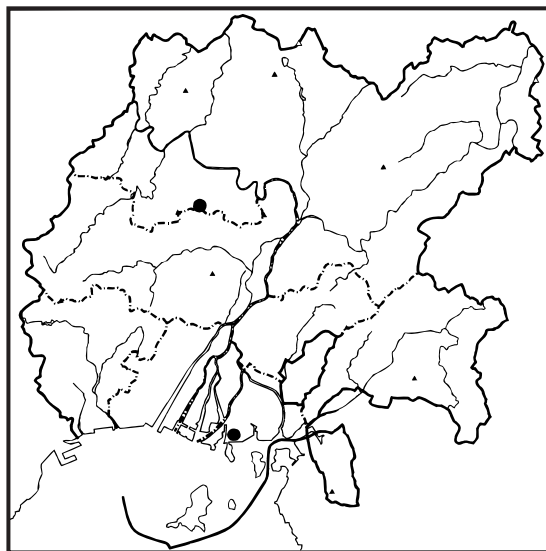
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ オオクロカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Megasemum quadricostulatum

北海道，本州，四国，九州に分布し，亜高山帯の針葉樹林に生息する。体長19～29mm。県内では西中国山地や広島市，宮島町の記録があるが，近年の記録はない。

モミの立ち枯れから発生することが知られているが，詳しいことは分かっていない。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

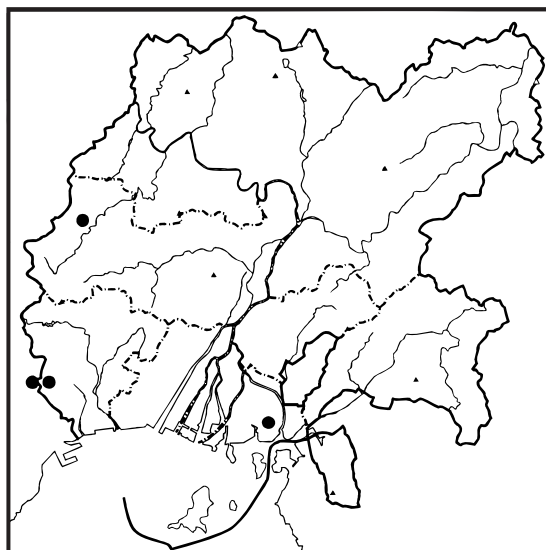
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ヒゲナガカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Monochamus grandis

北海道，本州，四国，九州に分布する。体長26～44mm。オスは体長の3倍以上の触角を持つことからこの名が付いた。県下では限られたモミ林に分布している。

市域では，南区，佐伯区，安佐南区で確認されている。大気汚染や酸性雨などによりモミが枯れつつあり，生育環境の悪化が懸念される。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

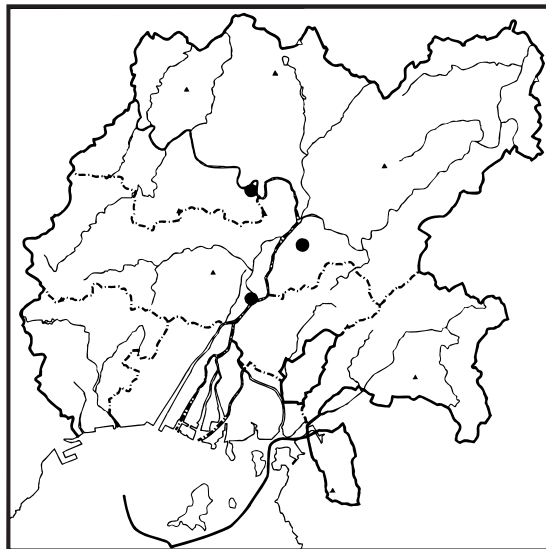
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で持続基盤が比較的安定している

■コハンミョウ（コウチュウ目，ハンミョウ科）

Cicindela specularis

本州から琉球列島^{りゅうきゅう}まで分布する。体長約12mm。

安佐北区，東区から記録がある。今回の調査では確認できなかった。神社の境内とか運動場のへりの草の生えていない砂質の場所にみられる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

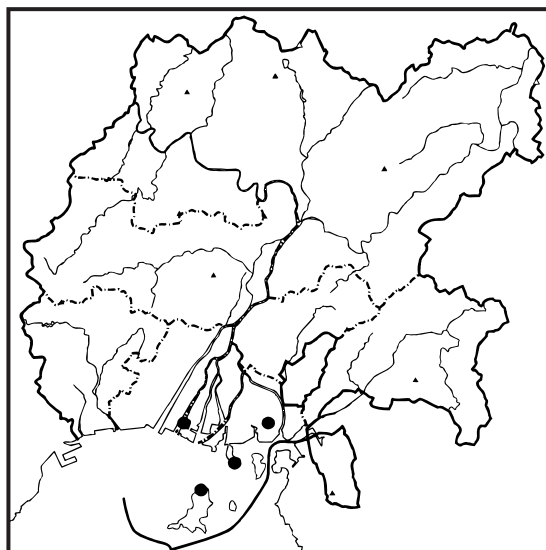
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で持続基盤が比較的安定している

■ハネナシセスジキマワリ（コウチュウ目，ゴミムシダマシ科）

Strongylium marseuli

本州，四国^し，九州に分布する。体長10～12mm。後翅^しは退化している。幼虫は朽木中で生育し，成虫は枯れ木やキノコ類に集まる。

市域では南区比治山，黄金山から記録があり，今回新たに南区元宇品^{もとうしな}，中区江波山で生息を確認した。林内の倒木，朽木などが撤去，掃除されると生息が困難となる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

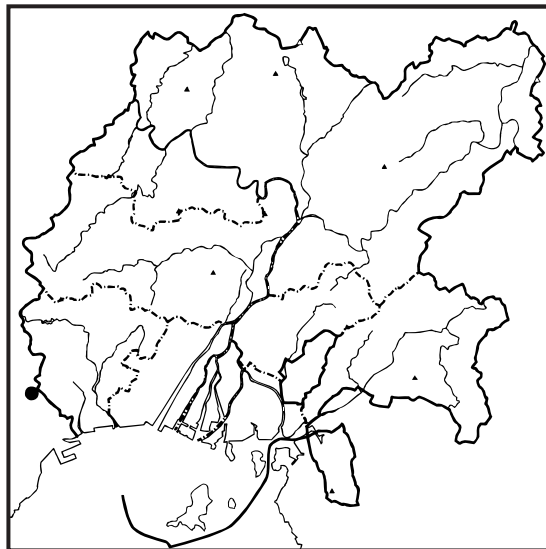
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ ヤマトシロオビトラカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Kazuoclytus lautoides

本州，四国，九州に局地的に分布している。体長7～12mm。中間温帯林のモミ林にみられる。県下では，廿日市市，筒賀村から記録されている。

市域にモミが多くあるが，生息は確認されていなかった。今回，佐伯区極楽寺山で確認した。極楽寺山の分布の中心は廿日市市にあると考えられる。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

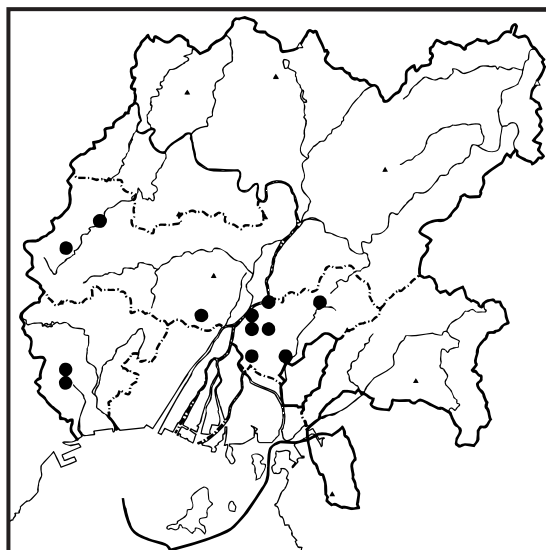
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ タテジマカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Aulaconotus pachypezoides

本州，四国，九州に分布する。体長17～24mm。県下に広く分布するが，山間部の記録は少ない。カクレミノやコシアブラに生木に幼虫がみられる。

広島湾の島や太田川デルタの陸島からは生息が確認されていなかったが，近年生息が確認された。庭木について分布を拡大している可能性がある。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

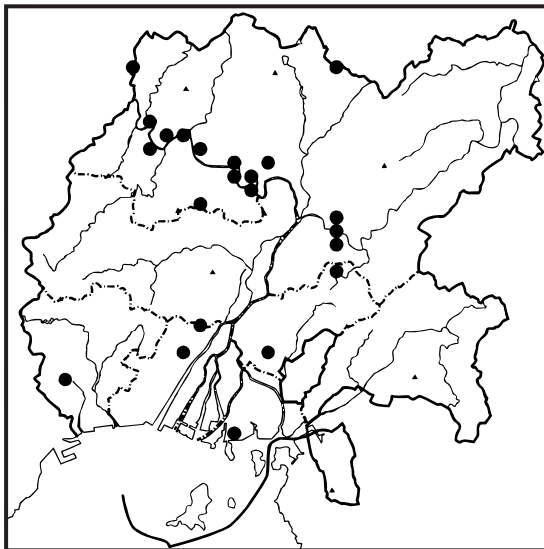
■ オオムラサキ（チョウ目，タテハチョウ科）

Sasakia charonda charonda

北海道南部，本州，四国，九州に分布。

開張83～94mm。6月から7月に成虫がみられる。雄の翅は中央部が広く青紫色で白紋がある。雌には青紫色の幻光はない。

市域では，安佐北区に記録が集中しているが，生息地は各地にあるもの考えられる。食樹のエノキや雑木林が開発や河川改修により失われ生息地が減少している。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

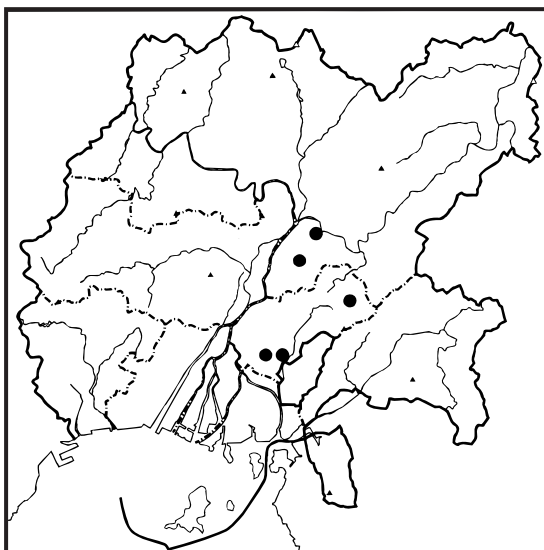
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ マルタンヤンマ（トンボ目，ヤンマ科）

Anaciaeschna martini

本州(岩手県の一部と関東以西)，四国，九州に分布し，平地や丘陵地の水草の多い池や湿地に生息する。体長78～80mm。成虫は6～9月にみられる。薄暮飛行性。

最近少なくなっているように思われるが，原因は不明。



昆虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で現状が不明である

■ ジュウシチホシハナムグリ（コウチュウ目，コガネムシ科）

Paratrichius septemdecimguttatus

本州から九州まで分布する。体長約11mm。前胸背に5個と上翅に12個の計17個の小紋がある。

市域では1983年に安佐北区で採集された以後の記録はない。確認された地域の生息環境は保たれている。



昆虫類

環境指標種

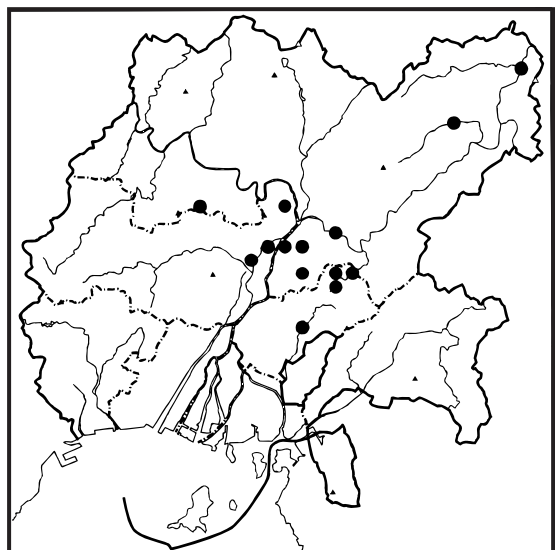
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ グンバイトンボ（トンボ目，モノサシトンボ科）

Platynemis foliacea sasakii

本州(宮城県の一部と関東以西)，四国，九州に分布し，比較的清らかな丘陵地の小川に生息する。体長32～36mm。成虫期は6～9月。

市域では，太田川，三篠川流域に分布し，農薬の使用で減少したが，現在は回復しつつある。安佐南区の古川せせらぎ公園では整備後増加した。



昆虫類

環境指標種

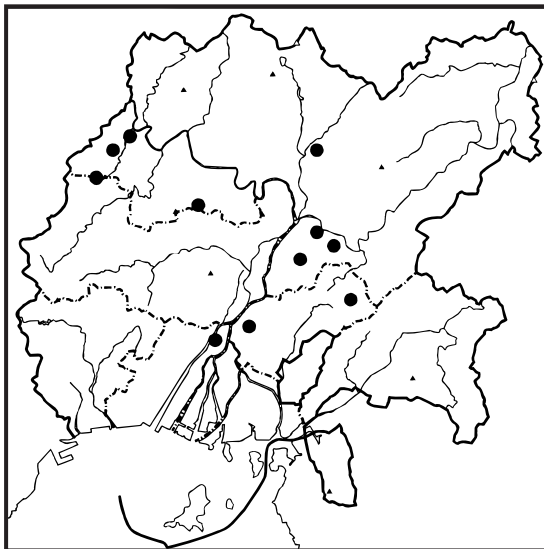
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ムカシヤンマ（トンボ目，ムカシヤンマ科）

Tanypteryx pryeri

本州，九州に分布し，幼虫は湿地や山脚の浸出水で潤っているミズゴケやジャゴケの下に穴を掘って生息する。体長68～75mm。成虫は5～6月に出現する。

市域での生息状況は調査不十分。生息地は山間部や丘陵地にあるが，開発や法面のコンクリート化による生息環境の減少が懸念される。



昆虫類

環境指標種

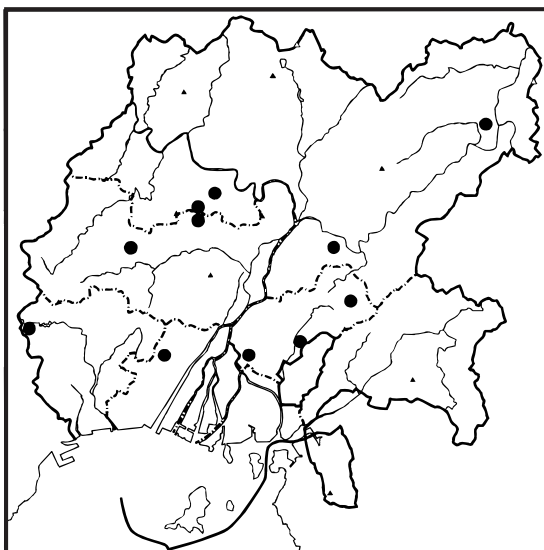
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ハッチョウトンボ（トンボ目，トンボ科）

Nannophya pygmaea

本州，四国，九州に分布し，モウセンゴケ，ミミカキグサ類，サギソウなどが生える日当たりの良い湿地や放棄水田に生息する。体長17～19mm。成虫は5～8月にみられる。

市域における生息状況は調査不十分。湿地や放棄水田に生息すると思われ，開発などによる生息地の破壊が懸念される。



昆虫類

環境指標種

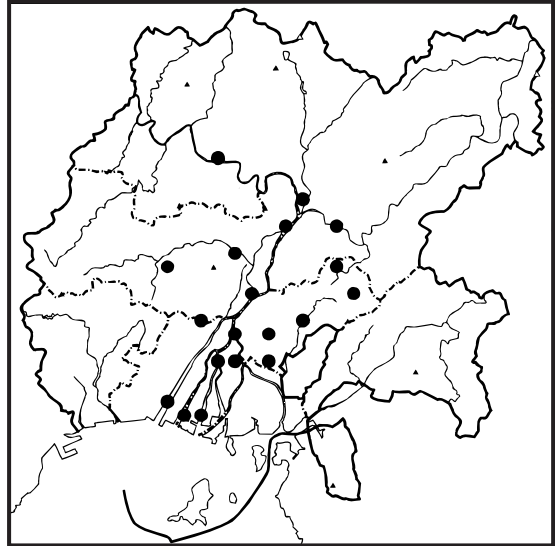
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ トノサマバッタ（バッタ目，バッタ科）

Locusta migratoria

日本全土に分布し，河原や海浜の草丈が低い草原や荒れ地に生息する。体長35～65mm。

現在も都心部を除き広く分布している。近年，近郊の都市化により草原や空き地などの生息地の消失が著しいが，公園や河川敷の芝地など，人為的な環境を発生地としうることから，これらを利用して将来も存続するものと推測される。



昆虫類

環境指標種

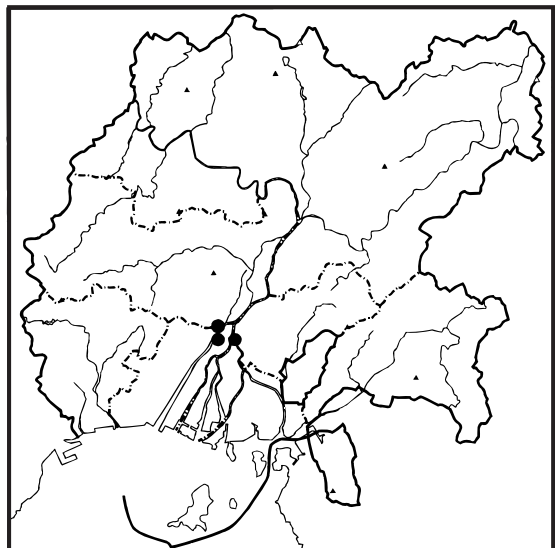
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ キバナガミズギワゴミムシ（コウチュウ目，オサムシ科）

Armatocillenus yokohamae

北海道から九州まで分布し，海浜に生息する。体長は約4mm。

市域では，太田川の大芝水門から下流のアシ原のある河原に生息している。感潮域のアシ原が保全されていれば生息環境は維持される。



昆虫類

環境指標種

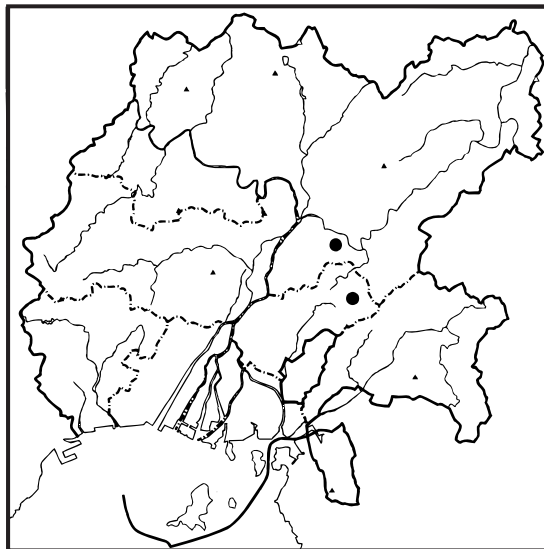
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ホソクロマメゲンゴロウ（コウチュウ目，ゲンゴロウ科）

Agabus optatus

本州，四国に分布し，落ち葉が堆積した水たまりや湿地など，浅く不安定な水域に生息する。体長7～8mm。

県下では内陸部からのみ記録されていたが，近年，市域でも東区福田町の林道脇の定常的な水たまりや，安佐北区深川町の湿地化した放棄水田で採集された。郊外の低山地や丘陵地に広く生息していると推測される。



昆虫類

環境指標種

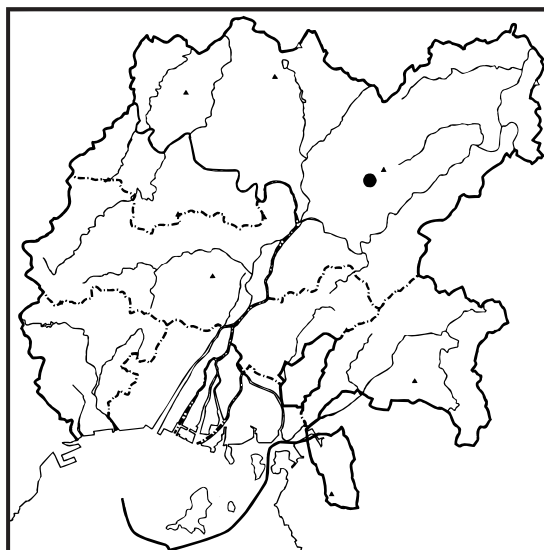
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■オビモンマグソコガネ（コウチュウ目，コガネムシ科）

Aphodius(Chilothorax) okadai

本州に局所的に分布し，既知の産地は広島県を含め7カ所である。体長4～5mm。シカなどが生息する森林に生息し，シカ糞を主食にしているらしい。成虫の活動期は11～3月。

安佐北区白木山の標高約650m以上の山林の一部でしか確認していない。



昆虫類

環境指標種

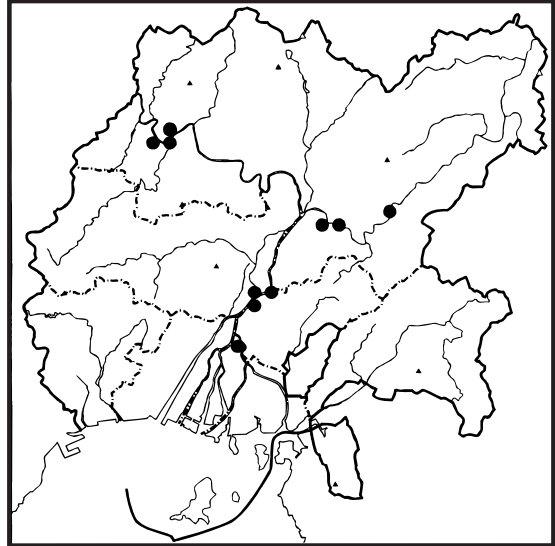
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ヒゲコガネ（コウチュウ目，コガネムシ科）

Polyphylla laticollis

関東以西の本州，四国，九州に分布し，河川中・下流域の河原や河畔林，海浜に生息する。体長30～40mm。成虫は8月に出現し，灯火に飛来する。

市域では，太田川と三篠川^{みささ}の河川周辺で確認されている。太田川では河川敷の整備が進んだことにより激減し，1999年の調査では確認できなかった。



昆虫類

環境指標種

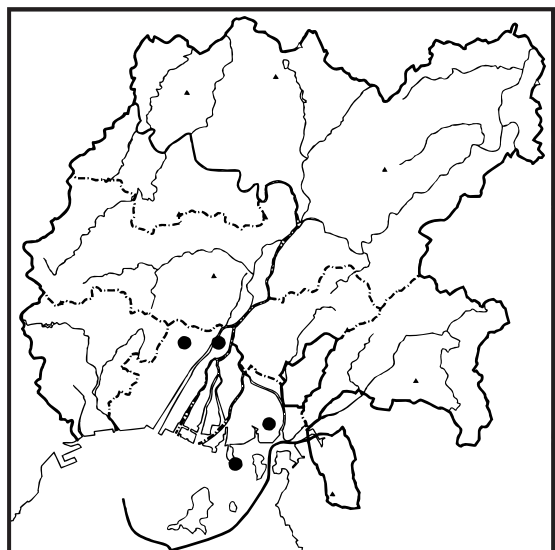
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ホソコハナムグリ（コウチュウ目，コガネムシ科）

Glycyphana gracilis viridis

本州（西部），四国，九州に分布する。体長約11mm。成虫はアカメガシワ等の花に集まる。

市域では，南区比治山^{もとうじな}，元宇品^{もとうじな}，西区三滝町からの記録があり，今回南区黄金山と元宇品で生息を確認した。開発により生息環境が悪化している。



昆虫類

環境指標種

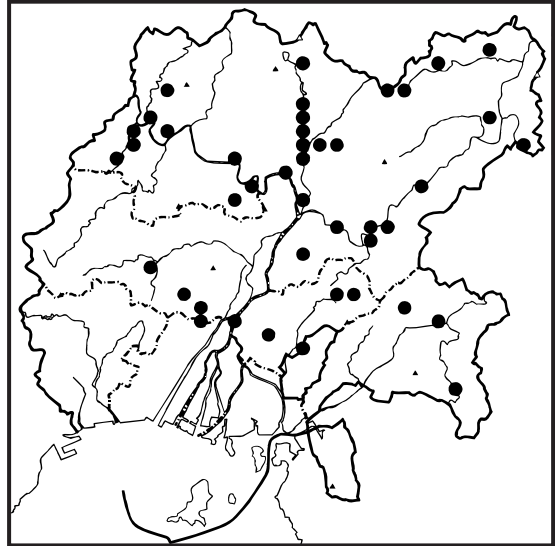
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ゲンジボタル（コウチュウ目，ホタル科）

Luciola cruciata

本州，四国，九州に分布し，河川中・上流域に生息する。体長15～20mm。幼虫は水生で，カワニナを食べる。

太田川支流の上流域では比較的安定して発生しているが，中流域では明らかに減少しつつあり，下流域では絶滅した地域も多い。瀬野川の近年の生息状況は不明。里山環境の代表的な指標種。



昆虫類

環境指標種

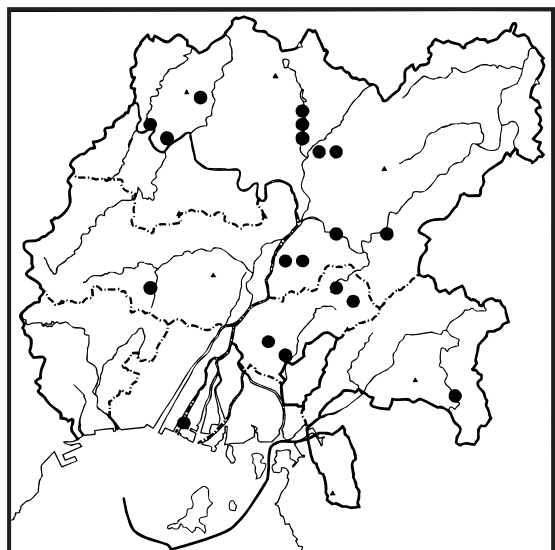
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ヘイケボタル（コウチュウ目，ホタル科）

Luciola lateralis

北海道，本州，四国，九州に分布し，用水路や水田に生息する。体長8～10mm。幼虫は水生で，ヒメモノアラガイなどを食べ，比較的水質の汚濁に強い。

太田川支流の上・中流域では安定して発生しているが，都市近郊の小河川では護岸整備や生活排水の流入により激減している。里山環境の代表的な指標種。



昆虫類

環境指標種

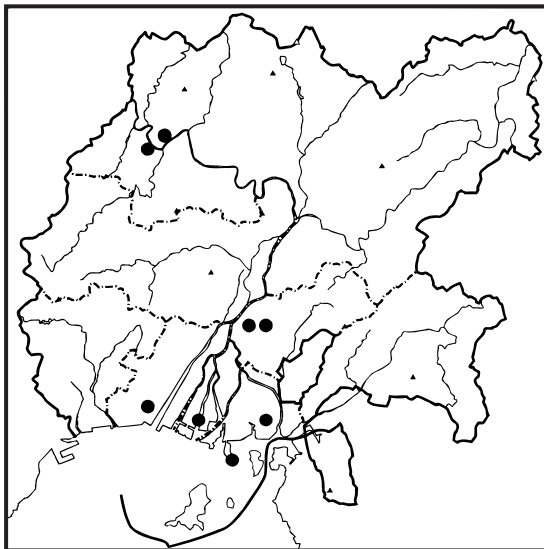
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ウスバカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Megopis sinica sinica

北海道から沖縄・小笠原まで分布する。
体長30～55mm。体色は暗褐色～暗赤褐色。
大きな木の樹洞などから発生する。県下では島しょ部から山地部まで広く分布する。

市域では、街路や公園や学校などの、^{しん}芯腐れや空洞のあるヤナギやポプラ等の大木に見られる。^{ふきゅうぶ}腐朽部のある衰弱木の伐採及び手入れにより生息環境が破壊されている。



昆虫類

環境指標種

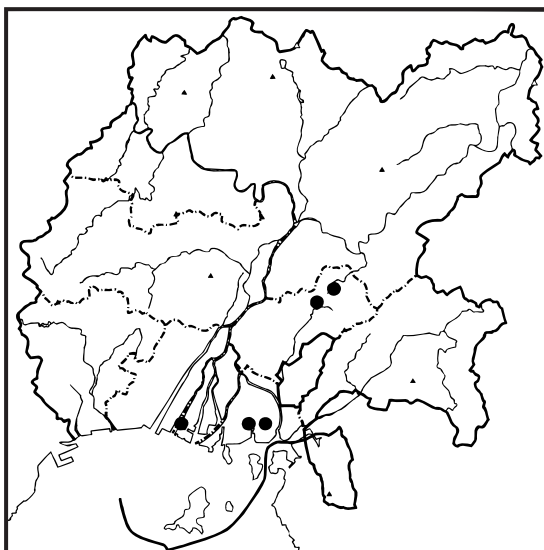
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ キマダラカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Aeolesthes chrysothrix chrysothrix

東北地方南部から沖縄まで分布する。体長22～35mm。体色は赤褐色。カシ類やナラ類の衰弱木や枯れて間もないものから発生する里山の代表的な昆虫類。

県下での記録は少なく、市域の最近の記録はない。南区，中区，東区から記録されている。



昆虫類

環境指標種

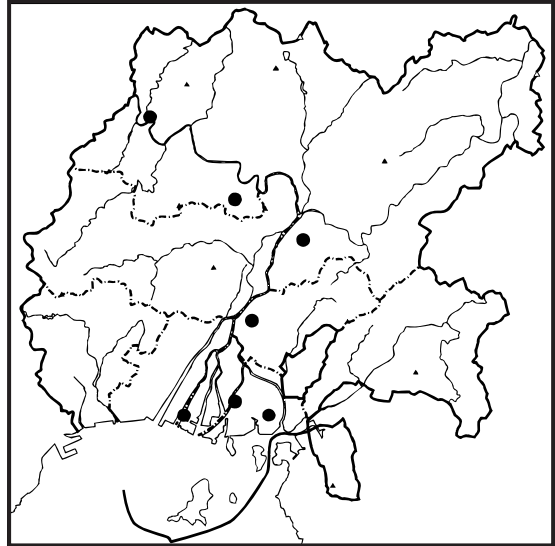
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ミヤマカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Massicus raddei

北海道から九州まで分布する。体長34～57mm。体色は黒褐色。暖温帯林を代表するカミキリで，シイ類やカシ類の生木から発生する。成虫は樹液や灯火に集まる。

山地部を除く県内に広く分布している。市域では中区，南区，東区，安佐北区から記録がある。加害木への薬剤の散布で減少している。



昆虫類

環境指標種

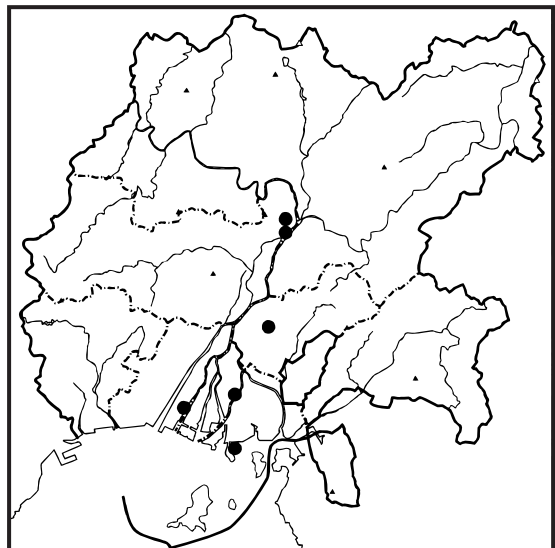
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ヨツスジトラカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Chlorophorus quinquefasciatus

本州西南部，四国，九州，琉球列島に分布する。体長13～18mm。暖地系のカミキリで，沿岸の暖温帯林に生息する。広葉樹の枯れ枝から発生し，成虫はアカメガシワやヤブガラシの花に集まる。

市域では，南区，中区，安佐南区から記録がある。



昆虫類

環境指標種

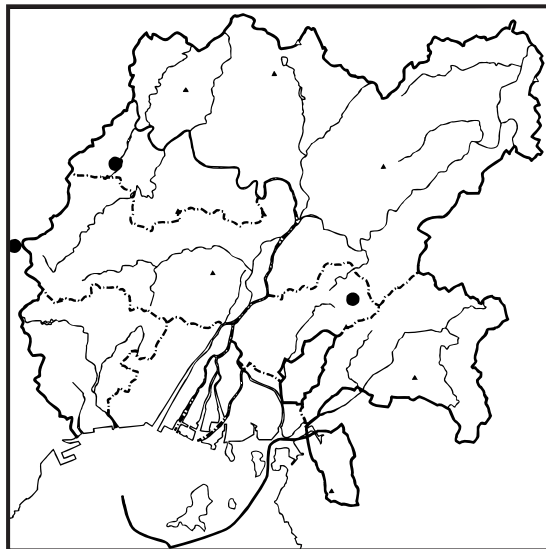
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ セダカコブヤハズカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Parechthistatus gibber

関東地方以西の本州，四国，九州に分布する。体長は12～20mm。体色は暗赤褐色。後翅が退化し飛ぶことはできない。県下では，山間部に分布が偏っている。

市域では，安佐南区，安佐北区，東区で生息が確認されている。ブナ林や広葉樹林など伐採履歴の少ない森林の指標種。



昆虫類

環境指標種

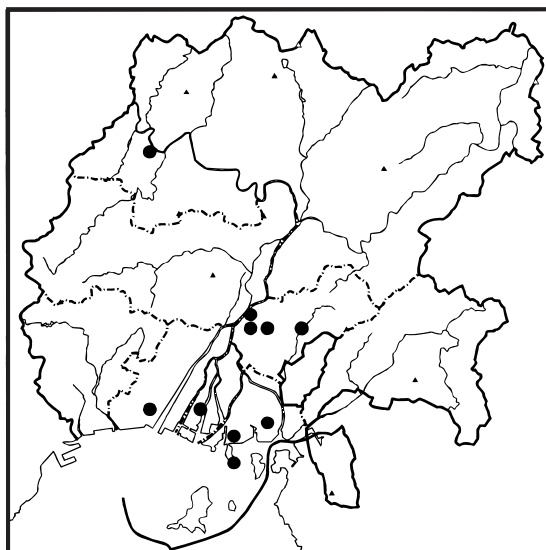
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ クワカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Apriona japonica

本州，四国，九州に分布する。体長36～52mm。体は灰黄褐色の微毛におおわれる。県下に広く分布するが，キボシカミキリと競合し，市街地から姿を消している。

市域に普通にみられたが，1970年代にキボシカミキリが増加し激減した。1990年代後半にはキボシカミキリが急激に減少したが，本種の個体数は回復していない。



昆虫類

環境指標種

その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ シロスジカミキリ（コウチュウ目，カミキリムシ科）

Batocera lineolata

本州，四国，九州，奄美に分布する。体長45～52mm。灰色地に黄色の筋状の斑紋^{はんもん}を持つ。クヌギやコナラなどの森林にみられる。

市域では東区，中区，南区，西区，安佐北区から記録があるが，最近，旧市域での記録はない。里山の減少とともに，急激に個体数が減っている。



昆虫類

環境指標種

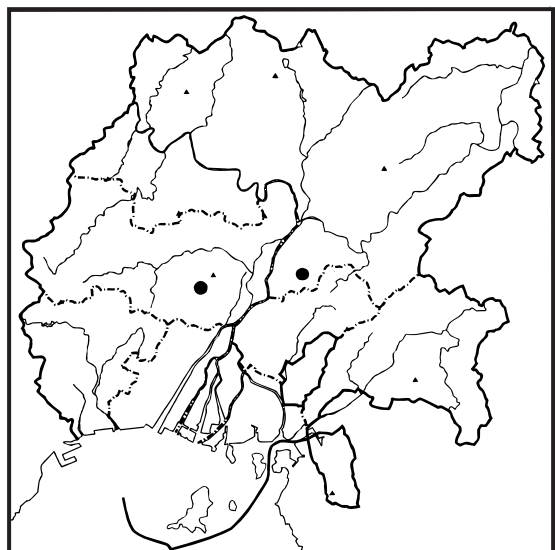
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ アミメトビケラ（トビケラ目，トビケラ科）

Oligotricha furvipes

北海道，本州の山地の池沼に生息する。体長12～14mm。成虫は5～8月に出現する。県下では山地に広く分布していると思われる。

市域では，安佐北区，安佐南区から記録されている。生息環境の消失や悪化で減少している。自然環境がすぐれたため池の指標種。



昆虫類

環境指標種

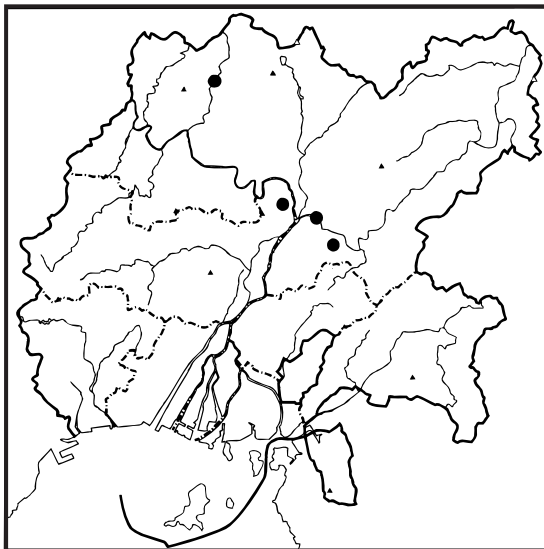
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ウスイロオナガシジミ（チョウ目，シジミチョウ科）

Antigius butleri

北海道，本州，九州に分布し，ミズナラ帯が主要な生息域であるがナラガシワ林にも生息する。開張25～40mm。

市域では安佐南区，安佐北区から記録があるが，もともと少ない。開発，植林による落葉樹林の減少で，きわめて少なくなっている。



昆虫類

環境指標種

その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ ヒロオビミドリシジミ（チョウ目，シジミチョウ科）

Favonius latifasciatus

近畿地方北部から中国地方の特産種で，低山地のナラガシワ林に生息する。開張約35mm。

市域では安佐北区に分布が集中する。ナラガシワ林の減少と荒廃により，近年ほとんど記録されなくなっている。

